

厚真町で開催された「北海道・木育（もくいく）フェスタ 2023」

令和5年5月28日（日）に、「北海道・木育（もくいく）フェスタ 第73回北海道植樹祭」が厚真町字幌内で約550名参加のもと開催されました。主催者は、北海道、林野庁森林管理局、苫小牧市、公益財団法人北海道森と緑の会の4者です。

私ども国土防災技術北海道(株)では、協力者の北海道森林土木設計協会の一員として、当社から社長、山口秀美、木戸口和裕の3名が参加しました。

今回の植樹祭の開催テーマは「届けよう 未来の世界に この緑」で、胆振東部地震から5年目の節目にあたり、森林再生に向けた植樹祭として位置づけられています。

胆振東部地震は、平成30年（2018）9月6日午前3時7分発生し、最大震度7を記録し、斜面崩壊で死者36名の貴い命が奪われました。また、林地の崩壊面積は約4300ヘクタールで、明治以降、国内最大の林地崩壊面積といわれています。

厚真町は、当該地震による林地崩壊面積の約75%を占めるほど被害が大きく、ここでは、荒廃した国土をみどりにもどそうと昭和25年から始まった緑化運動の原点に帰った開催と言えるのではないかと考えられました。

また、明治以降、国内最大の林地崩壊に立ち向かう森林再生プロジェクトのスタートアップ事業という側面もあり、林業復興への足掛かりとなるものと期待されます。

災害発生から5年目を迎えていますが、主催者の宮坂尚市朗厚真町長の挨拶の中で、「森林再生は緒に就いたばかり」という言葉が、非常に印象的で、森林再生への着手の難しさを示していると思われました。



主催者代表の鈴木直道北海道知事のあいさつ

植樹会場は、厚幌ダムの下流にあり、厚真川の左岸側で胆振東部地震の復旧時の排土による盛土上に設定されていました。その背後には、地肌の剥き出しの崩壊地やそこでの少しばかりの植生が見られました。



植樹終了後の会場

植樹した樹種は、アカエゾマツ、カラマツ、ケヤマハンノキ、エゾヤマザクラ、シラカバ、ヤチダモの6種で、北海道森林土木設計協会の参加者はヤチダモを植栽しました。このヤチダモ植栽では、エゾシカ等の対策として1本支柱の防護ネットを設置しています。

厚真町はミヤコザサ地帯で、雪も少なく、エゾシカにとっては生息しやすいところです。北海道の山間地での広葉樹植栽では、エゾシカ、エゾユキウスギ、エゾヤチネズミからの被害防止を考えなくてはならないので、ここでは、この防護ネットを選択したと思われます。

ヤチダモは、モクセイ科の落葉高木で、開葉が遅いのに落葉も早いです。成長は早く、幹は真っすぐに伸びます。今回の植樹では、防護ネットで覆ったヤチダモがとても窮屈そうだったので、どうかしっかり光合成をして、健全に育ってほしい、と願わずにはいられませんでした。



植樹状況